

課題項目	各意見
<p>④ 情報の提供の仕方の充実 「情報の整理整頓による一元化と積極的な情報発信」</p>	<p>*情報の一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のスポーツ相談窓口の設置 ・市のスポーツイベントなどに関する一覧表の整備 <p>*情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行われているスポーツ教室、イベントなどに関する内容の広報 ・ホームページ、ブログなどITを使った情報発信の充実 ・「する」「観る」「支える」スポーツに関するすべてについて閲覧できるしくみ ・学校からの口コミによる児童・生徒へのスポーツ活動紹介 ・有線放送やテレビ放送などを使ってスポーツイベントなどの紹介 ・市内掲示板や回覧板、置きチラシなどによる活動の紹介やイベント案内
<p>⑤ 設備のメンテナンス・整備など 「設備のメンテナンスと施設利用ルール」</p>	<p>*老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我防止のための修理 ・防虫対策 <p>*清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設に清掃具の整備→後から使う人のため（しつけ、感謝の心の育成） <p>*設備利用のルールづくり（明確化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平な利用 ・有効で効率的な利用
<p>⑥ スポーツに対する意識や意欲の醸成 「観ることから学び、意欲を持つしくみ」</p>	<p>*プロや一流アマチュア選手との交流・見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県レベルのスポーツ大会の招へい ・各学校、スポーツイベントへプロや一流選手を招へい <p>*学校の事業でプロの試合や競技を見学</p>
<p>⑦ その他</p>	<p>*安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備、道具などの安全性の確認 ・指導者・ボランティアなどへの安全教育などの実施 ・夜間の街灯・道路補修など（ウォーキング、ジョギングなどのため） <p>*企業などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ごとのチームを作りイベント参加を要請 ・朝のラジオ体操を会社ぐるみで実施するなどの要請 <p>*資金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進のためにはお金もかかるが、そのための募金活動などを行う

3. 各グループの発表内容

《Aグループ》

氏 名	
◎磯村	尚江
天野	和幸
設楽	千代
田中	由美子
岡田	康平
小川	龍也
藤原	里穂



◎はテーブルリーダー

<p>《する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障者スポーツの場所、指導者の養成・確保が大切 ・高齢化に伴い高齢者が手軽に行えるスポーツに取り組む ・公民館活動や市でスポーツ教室を開く ・身近な地域内でスポーツ教室を開く（子どもからお年寄りまで気楽に参加） ・親子（小学生）スポーツ教室を開催する。（親子のふれあい、スポーツの楽しさを知る） ・手軽に取り組めるようなスポーツ（ランニング、ウォーキング等）を推進する（道具がいらぬい） ・学校体育施設の開放 ・体育施設の無料開放の日を作る ・今あるスポーツの大会数を増やす ・少子化で、部活などで競技の選択ができなくなっている→対策必要 <p>《観る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技場の設備を整えて観覧しやすいようにする ・米泉湖マラソンについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ公園体育館等の施設でのプロあるいは実業団レベルのスポーツ観戦を行う ・県や中国大会レベルのスポーツ大会を誘致（子どもたちにレベルの高い試合を見せる） ・市のホームページだけでなく、広報等にもスポーツ大会予定を掲載する <p>《支える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生くらいからスポーツに関われるように各学校でスポーツ少年団に参加するように呼びかける。 ・それぞれのスポーツ経験者よるスポーツ教室や大会のお手伝いへの参加 ・スポーツ少年団などスポーツの指導者の質を高めることで、もっと人が集まる ・子どもがスポーツ少年団に入っている保護者は指導者となり一緒に練習に参加する ・市の施設で開催される県レベルの大会をPRする ・ちょるるのようなマスコットをつくりスポーツ推進のPRをする ・市民のスポーツに対するの興味関心を向上させる
--	--

《Bグループ》

氏 名	
◎岡崎	みゆき
佐古	守俊
磯永	千代子
中村	亮太
諏訪	弘樹
兼重	玉代
熊谷	悠聖



◎はテーブルリーダー

<p>《スポーツに対する意識》</p> <ul style="list-style-type: none"> • お互い注意しあいともに技術を上げていく • 言われたことに誠実になってみる • 何事にも挑戦する • プレーヤーは自分一人でここまで来れたわけではないので感謝する • 70歳なので無理なく体を動かすことから始める <p>《施設環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体育館などの室内でスポーツができる施設をもっと増やし雨天時でもスポーツができる環境を増やす • 老朽化した施設の修理や建て替え <p>《初心者向けのイベント開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ少年団の子もたちは地元のすごい選手などとふれあうチャンスがたくさんあればもっとやる気を出す • 世代を超えたスポーツ交流の機会をつくる（現在、中学生同士の大会はあるが、世代を超えたものはない） • 地域のスポーツに参加したいが初心者は無理と言われたことがあるので、初心者向けのグループがあれば参加しやすい • 幼児と一緒にできるスポーツ教室等を開く、昼間できるようにする。 • 恋路の運動公園に遊びに来るファミリーを対象にスポーツ体験のイベント • 各スポーツ大会の開催を多くする • 家族向け体験型のスポーツイベント • 道具を使わずともできるスポーツを <p>《指導者の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種スポーツ関連団体同士の交流会を行い、横のつながりを強化 • プレーヤーの気持ちを考えた支えを行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 指導側は客観的な意見を取り入れればよい • 良かった所は褒め、悪いところは怒るのではなく軽く注意するようにする • 中体連、高体連などの枠を超えた交流の推進（市民という視点） • スポーツイベントの宣伝が必要で、学校で、掲示やプリントを使い、直接子どもに情報が伝わるようにする。（公民館経由親経由では子どもに伝わりにくい） • スポーツ人口を増やすことで、支えていく人も増える • 上から目線で教えるのではなく指導をする • 指導者が市民の意見を入れることで、観る人がわくわくし、やってみたい人が増え、スポーツが盛んになる <p>《情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> • なにかスポーツを始めたいと思った時に、相談の窓口になるところの設置で団体やサークルの周知を図る <p>《ボランティア》</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボランティアスタッフの登録をする • 身近な大会等でボランティアスタッフとして参加機会があればいい • ボランティアが多すぎるので少し減らす <p>《観る》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会人の大きな大会が見たい • プロスポーツの試合の開催 • 子どものスポーツを増やすことで観るスポーツを増やす • 子どもの相撲や球技大会など • トップスリートをプレーを観戦する機会を増やす • 観客席をもっと増やす
---	--

《Cグループ》

氏 名
◎小松 英二
小本 輝夫
石丸 美恵子
有吉 丈夫
上田 房江
松尾 一生
大木 秀真



◎はテーブルリーダー

<p>《する》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 家族のスポーツ大会開催 • 身近な施設の利用促進 • 地域一体でスポーツを通しての交流 • プロやオリンピック選手など一緒にプレー • いろいろなスポーツの体験の場を作る（中高の部活やスポーツ団に協力してもらう） • 気軽にできる（取組みやすい）スポーツの推進 • 健康診断を行う • 小学生のジュニアスポーツをきっかけにスポーツに親しんでもらう 小→中→高→成人とつづけられる環境が欲しい • 市内のスポーツクラブすべてを一覧表で紹介してもらうとわかりやすい • 近所、知り合いからスポーツへの参加を紹介してもらう（口コミ） • どこでなにがあるのかの情報 • 地域スポーツの紹介 • 仕事と運動を両立できる取組み • 総合型地域スポーツクラブの普及 • ジョギングする人が多く、恋路のグラウンドはジョギングに適しているので、それを利用してジョギングのだれでも参加できる教室を開催 	<p>《観る》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一流チーム、一流選手の誘致 • 情報発信 • だれもがわが子や知り合いががんばっている姿を応援します • 回覧板や広報にスポーツイベントの日程を掲載する • 下松市の運動会をもっとアピールし、参加者を増やす 駅伝も年々参加者や応援者も増えているように見える • 観戦できる大きな大会の実施をする • トップアスリートによるスポーツイベントの開催・交流 <p>《支える》</p> <ul style="list-style-type: none"> • ニュースポーツをするための場所と時間の提供 • どの施設でどのようなスポーツができるのかポスター等 • 社会スポーツと学校とのつながりづくり • 日頃からボランティア活動に力を入れる 各地域、学校などそれを下地に手伝ってもらう • 子ども会サポートクラブ • スポーツ指導者の交流会 • 指導者の資質向上 • スポーツボランティアの育成 • 自分にあったボランティア ニーズにあったボランティア
---	--

《Dグループ》

氏 名	
◎原田	浩
田村	育人
赤崎	政子
八道	寿
星井	拓也
兼子	大毅
中村	佳那子



◎はテーブルリーダー

<p>《スポーツイベント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女・大人・子ども誰もが簡単にできるスポーツの開催 ・参加チームどうして交流が図れると楽しい ・同スポーツの紹介 ・市民スポーツを普及させてスポーツの底辺を広げる ・ジムなどにトップアスリートを呼んで普段のトレーニング方法を観る ・スポーツ観戦の機会を設ける（恋路運動公園での国体は反応がよかった） ・市のクラブチームを複数の競技で作る ・生涯を通じてスポーツを楽しむ仕組み ・運動する子としない子が大きく二極化していることへの対策 ・休み時間を利用したスポーツ→大会へ ・地域の人材を学校の授業に活かしてスポーツを普及（あこがれ、地域の連携） ・体力向上の取り組み ・家庭と連携した施策（家族ぐるみでチャレンジ） ・夢をもった目標づくり ・スポーツ大会の開催（地区単位、年2～3回） <p>《支える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設やそこで世話をしてくれる人の確保が大切 ・スポーツの指導者を増やす ・スポーツの相談をする窓口の設置（統一窓口） ・公民館活動から支える人材の育成をする。 ・スポーツ少年団の父兄は活動が熱心であるように、家庭の協力が大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録チームを増やす施策が必要 ・施設利用に関して新ルールの検討 ・運動指導者のリスト作成 ・体育ボランティア→中学校ごとにリストを作成 <p>《PR活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ観戦の情報が少ない、日程をあらかじめ連絡する仕組み ・PRをすることで参加しやすくなり楽しい親睦が図れる。 ・スポーツ推進委員の仕事の内容をPR ・インターネットを活用した情報発信 ・紙媒体の情報発信の必要 ・体協等で情報窓口を一本化する ・回覧板にスポーツイベントの告知を入れる <p>《初心者を誘う》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでは参加しづらいので、親子参加型のスポーツを開催 ・初心者歓迎ということを全面に出したイベント情報の発信 ・初心者に対応できる指導者の育成 ・小学校の体育館や運動場でスポーツイベントを開催すれば行きやすい ・初心者を受け入れることができる受け皿づくり ・スポーツ体験イベントからまずは楽しさを体感してもらう ・初心者向け講習会（体操、一般スポーツ） ・地域のイベントを活用してスポーツ紹介 ・ゲートボールなど初心者用に貸し出し、その連絡場所の周知
--	---

《Eグループ》

氏名	
◎	田谷 義和
	武内 恵弐
	武居 幸生
	岡崎 澄江
	中村 光生
	小田 達朗
	有田 夢叶



◎はテーブルリーダー

<p>《環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内で釘がでていようなことでけがをしない整備 ・下松中学校武道館に金網をつけ、夏に虫がはいらないような工夫→防虫対策で稽古ができる状態をつくる ・テニスコートに照明を整備 ・スポーツ施設不備の手直し（けがをしないように） ・掃除道具の整備→次の人が使いやすい環境→礼儀、しつけ ・観客席が選手から遠いところでは、双眼鏡の貸し出し ・夜間のウォーキングが盛んになる中、街灯の整備が必要 ・屋外の観客席等での暑さ対策や授乳場所の確保、ベンチの設置 <p>《する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に参加できる、また参加しやすいイベントや教室 ・親子で参加できるイベント・教室 ・時間に制約が多い中、身近に参加しやすい環境 ・学校などの場所で小さい子からでもできるスポーツを教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・親、祖父母がしてきたスポーツを子どもに伝える→親子の会話 ・行事、教室を増やす→市だけに任せるのではなく、分担 ・スポーツに関してコミュニケーションを増やす <p>《支える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこでどんなスポーツが行われているかの情報を定期的に知らせる仕組み ・スポーツ情報コーナー ・スポーツボランティアについての広報 ・スポーツ選手や監督の話を聞く場 ・学校の授業で、スポーツ大会観戦やスポーツクラブへ行く <p>《資金》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進のためには、お金もかかるがそのための募金活動などを行う ・市が市内のスポーツ施設に資金援助し、その分利用者が利用費を下げてもらおうなどの支援
--	--